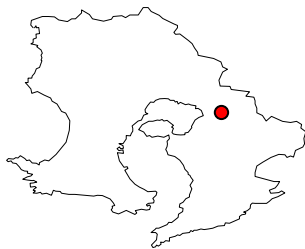


モデル事業名	町民運営による新たな活力生活圏形成事業
活動団体名	福山町地域活性化協議会
ホームページ	http:// (活動団体のHPのアドレス) なし
所属/ 担当者名	連絡担当 福永郁雄
連絡先	(0995) 56-3131 i-fukunaga@po2.synapse.ne.jp
活動地域	鹿児島県霧島市福山町

● 活動地域の概要

1. 平成 17 年 11 月 7 日、1 市 6 町が合併し霧島市となった福山町は、町の 63.1%を山林が占めている。
2. 福山町の平成 21 年 3 月 1 日時点の人口は 6505 人、世帯数は 2993 世帯で、合併した 1 市 6 町中いずれも 5 番目に少なく、人口減少は 2 番目に進んでいる（平成 17 年国勢調査、前回比較で 7.3%の人口減）
3. 町内の中心部である牧之原自治会を除く集落は、人口が 675 人未満、世帯数 300 世帯未満と極端に少なく、主として山間部において人口・世帯数が少なくなっている。
4. 高齢化率は 30.03%（市統計書）で、合併した 1 市 6 町中 4 番目の高さであるが、11 自治会中 2 集落が 50%を超え、40%代の集落も 4 集落存在し、山間部での高齢化が際立っており、人口減少と高齢化の進展により、平成 37 年には町平均で約 70.0%の高齢化率が見込まれている。
5. 町内には鉄道駅はなく、公共交通は国道及び主要な県道を通るバスのみである。
6. 町の主な産業は農業であり、販売農家数（366）は自給的農家数を上回っている。
7. 畜産農家も多く、その主体は肉用牛（農家数 220）に上っている



【鹿児島県 霧島市 福山町】



【居住者の不在化が進む集落】



【手入れがされず放置された山林】

● 活動地域の課題

平成 20 年度の採択とともに設立した協議会の中心となるまちづくり団体（ふっぎやまぼっけもん会）では、郷土を代表する桜島と鹿児島湾（錦江湾）を望む約 3ha の山腹に花文字（“ふくやま”）を実現し、地元の高中生や特殊学校の生徒との共同作業により花文字の維持・管理を行いながら、郷土への愛着育成、担い手づくり、環境保全の取り組みを 20 年間続けてきた。

また、平成 20 年度の採択事業においても、間伐材や伐採材の収集、利活用材（肥料等）の製作を行ったが、協議会外の参加者は少なく、将来の山林や農地の保全のために、地域コミュニティの活性化と地域内での連携した取り組みとして確立していくためには、担い手づくりが必要不可欠であると判明した。

● 活動の内容

・平成 20 年度

伐採材・間伐材利活用検討調査を行い、荒廃が進む山林の伐採材・間伐材を収集して利活用事業で、木炭化、チップ化、敷き藁化、畜産飼料化および堆肥化等製作作業を行った。

・平成 21 年度

地域コミュニティにより地域の課題解消を図る自立的な取り組みの定着を図るため、平成 20 年度の採択事業を継承し、町内の各種団体や町民、小学校等学校関係者による勉強会の開催及び利活用活動の更なる検討、町民等とのタイアップ社会実験（協働活動実験）、飼料や肥料の販売実験を行う。

● 活動の成果

・平成20年度

伐採材の粉碎材と土着菌の混合飼料による、牛への試食を行った結果、牛舎における臭いの低減効果が確認された。

また、肥料化についても伐採材に牛糞・豚糞・鶏糞に地元特産の酢粕を混合した、特殊肥料が野菜や花壇の花等の育成に良いとの確証が得られた。

伐採材の収集や粉碎化作業には多くの地域住民が参加し、取り組みへの理解が深まるとともに、間伐作業を実施した山林所有者からも感謝されるなど、町民内での機運が高まった。そして利活用事業を具体的に実施するに当たり、市や畜産、農業等の専門家だけでなく、町内の企業や事業所と積極的に相談した結果、様々な業種とのコミュニケーション、利活用材製作のための原料提供等連携が促進され、協議会活動を中心に市、町民、町内事業者全体の連携の可能性が想定よりも高まった。



【特殊肥料による花壇作り】



【きれいに咲いたサルビア】

・平成21年度

今年度は、伐採材の肥料化と木炭化を主に取り組むこととした。牛への飼料は、牛舎における臭いの低減効果はあったものの、肉質の改良が確認できるのに短期では結果が得られず断念した。

伐採材の肥料化は、昨年に引き続き地場産業の黒酢のもとである、酢粕（もろみ）を混合し木炭の粉末および土着菌等を配合した特殊肥料を製作した。

荒廃した山林の伐採材・間伐材を利活用した木炭・竹炭化は、昨年度、炭焼き窯が崩れ途中で終わったが、今回専門家を交えて炭焼き窯を作り直し火入れまでこぎつけた。



【深葱の生育状況】



【完成した炭焼き窯】

● 今後の課題及び展望

・課題

今年度においては、継続した事業を行うにあたり人材確保が困難であった。伐採材・間伐材の収集には多くの人材が必要であるが、機械を導入することで多少の軽減が出来ることが確認できた。

・展望

今年度において、伐採材等の肥料化と木炭化・竹炭化が順調にすみ販売実験が出来そうである。

荒廃した山林の正常化を行いながら、特殊肥料を使った生鮮野菜の販売および木炭・竹炭の販売実験で町内の各種団体や町民、小学校等学校関係者との勉強会の開催や利活用活動の更なる検討、町民等とのタイアップ社会実験（協働活動実験）を継続して実施する予定している。

最終的には、大自然と人間とのバランスの取れた社会作りを目指している。